

北斗遙かに

(昭和六十二年度寮歌)

佐久間朗君 作歌

吉田崇君 作曲

一

北斗遙かに広がる波濤煌く水平線
移り行く天水渡る朔風嚴冬の記憶を留めれど
新緑萌す曠野には若き生命の息吹あり
嗚呼季節の芳香満つこの北の大地に
新たなる夢を得て希望かなえん

二

北斗清かに見はるかす紺碧に滲む大空に
輝く光彩燦爛と短き盛夏を彩りて
涼風そよぐ窓下には緑滴る原始林
嗚呼季節の恵み満つこの北の大地に
新しき情熱もて真理求めん

三

北斗豊かに色づける黄金色の大沃野
充足誘う黄昏に遠く彼方を見渡せば
牧場を疾走る若駒の荒土蹴散らすその雄姿
嗚呼季節の実り満つこの北の大地に
新しき力得て正義貫徹かん

四

北斗果てなく包み込む荒び飛び散る猛吹雪
物皆埋み凍てつかせ我らが前途閉ざせども
ひたすら拓くその迪に放歌笑声絶ゆるなし
嗚呼季節の憂愁満つこの北の大地に
新しき意識もて自治を築かん